

和製バンドデシネ「Bergus Chan」

欧米まんが趣向のキャラクターと作品世界観を実作、そして映像化

BERGUS CHAN, A JAPAN-MADE BANDE DESSINEE Making of the Euro-style comic character and its world view, plus moving images

東 義真 大学院芸術工学研究科 助教

Yoshimasa HIGASHI Graduate School of Arts and Design, Assistant Professor

要旨

フランス・ベルギーを母体として、ヨーロッパには、バンドデシネと呼ばれる漫画文化がある。日本の漫画は本質的に、商業路線メインストリームによって、産業としての規模は世界で目を見張るものであるだろう。それに比較するとバンドデシネは作家性が非常に強く、アートとしての漫画という受け取られ方をすることが多いという。

端的に代表的な作家を言えば、メビウス（1938-2012、フランス）ということになる。メビウスの漫画は80年代に日本の作家、宮崎駿氏や大友克洋氏に影響を与えたとされる。また、漫画家に限らずアメリカのジョージ・ルーカス監督のようなSF映画作家もメビウスに魅かれたと公言する。バンドデシネはパラレルワールド的異世界を描くことで読者にファンタジーを与えてきたためにSFとの親和性が大きい。

私はそこで、バンドデシネ世界にアピールすることができるようなキャラクターと、そのファンタジー世界の構築を目指したのである。アジアの大スター、Jackie Chanに因んでBergus Chanという名の宇宙から来た喋る兎の冒険家を主人公に欧米風漫画を制作、また同キャラクターで映像作品を制作した。

Summary

Europe has own comic book style, which was originally from Franco-Belgian culture, and called bande dessinée. Japanese comics as manga are almost on the main stream for commercial purposes, its prestige is going around the world's comic industries. Compared to it, bande dessinée has more auteur theory like European cinema. Also, many people take it as art.

Moebius (1938 - 2012, France) is one of the representative authors of this style. His work influenced Japanese 80s manga authors like Miyazaki and Otomo. Also, US filmmaker, Lucas loved his work. Many of bande dessinée work are having sci-fi fantasy parallel worlds.

So, this time I created European-comic-like character, named Bergus Chan, which is named after Jackie Chan. Bergus is a talking rabbit from outer space. With the character, I made the manga, plus a film.

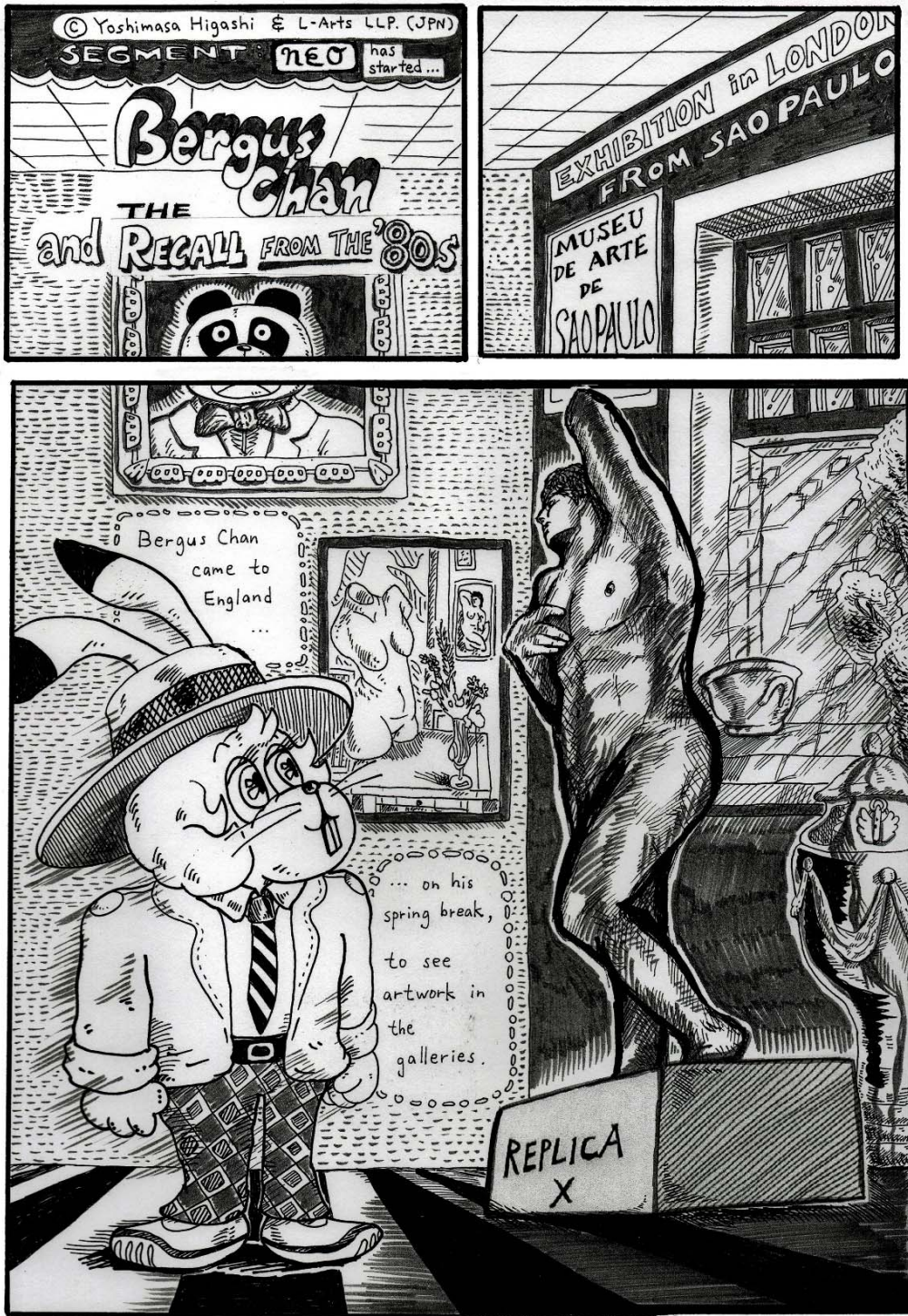


図1 Bergus Chan 1ページ目

欧米風なスタイルで作成している Bergus Chan シリーズ漫画の1ページ目である（図1）。

制作意図としては、国際的なキャラクター創作願望と夢の創造である。そこで、バンドデシネ的な作風を選んだ。本来バンドデシネのセンター地域はフランス語圏とスペイン語圏だが、Bergus Chan は、80年代ブリティッシュ・コミックのムードを意識した。1983年、10歳の時初めてブリティッシュ・コミックを見たことが、私の欧米コミック文化への憧れに繋がった。当時の欧米コミックの紙質はわかったが、そこに描かれたアートの自由さと表現のダイナミックさは今も私を捉え続けている。1980年代という時代特有の夢もあった。キッズ

文化はローファイで、あまりお金がかけられていなかったが、そこに自分の想像で補う楽しさがあった。

制作方法は、紙にペンで描くアナログな方法である。コマ配置等は Photoshop も利用。80年代ブリティッシュ・コミックの主流は、A4サイズ、一話20ページ程の単行本、カラー表紙に本文黒インクオンリー、テキストはフォントでなく手書き、左綴、英語である。それらを踏襲して全20ページを作成した。

(図2～図5)は、Bergus Chanの2ページ目から5ページ目までである。

このキャラクターとシリーズ漫画は、ロンドンで開催される、漫画評論家 Paul Gravett 主催コミックイベント Comica London(2016年度開催回、会場：House of Illustration)にて、紹介・配布された。

アニメーションと実写シーンを織り交ぜた手法で短編映像化も試み、完成。現在、映像化作品は TSUTAYA TV (<http://movie-tsutaya.tsite.jp/netdvd/vod/artDetail.do?titleID=8002455267>)にて配信されている。

なお映像化にあたり、配信ウェブ用ジャケットを制作し、前出のサイトで公開している(図6)。



図2 Bergus Chan 2ページ目



図3 Bergus Chan 3 ページ目

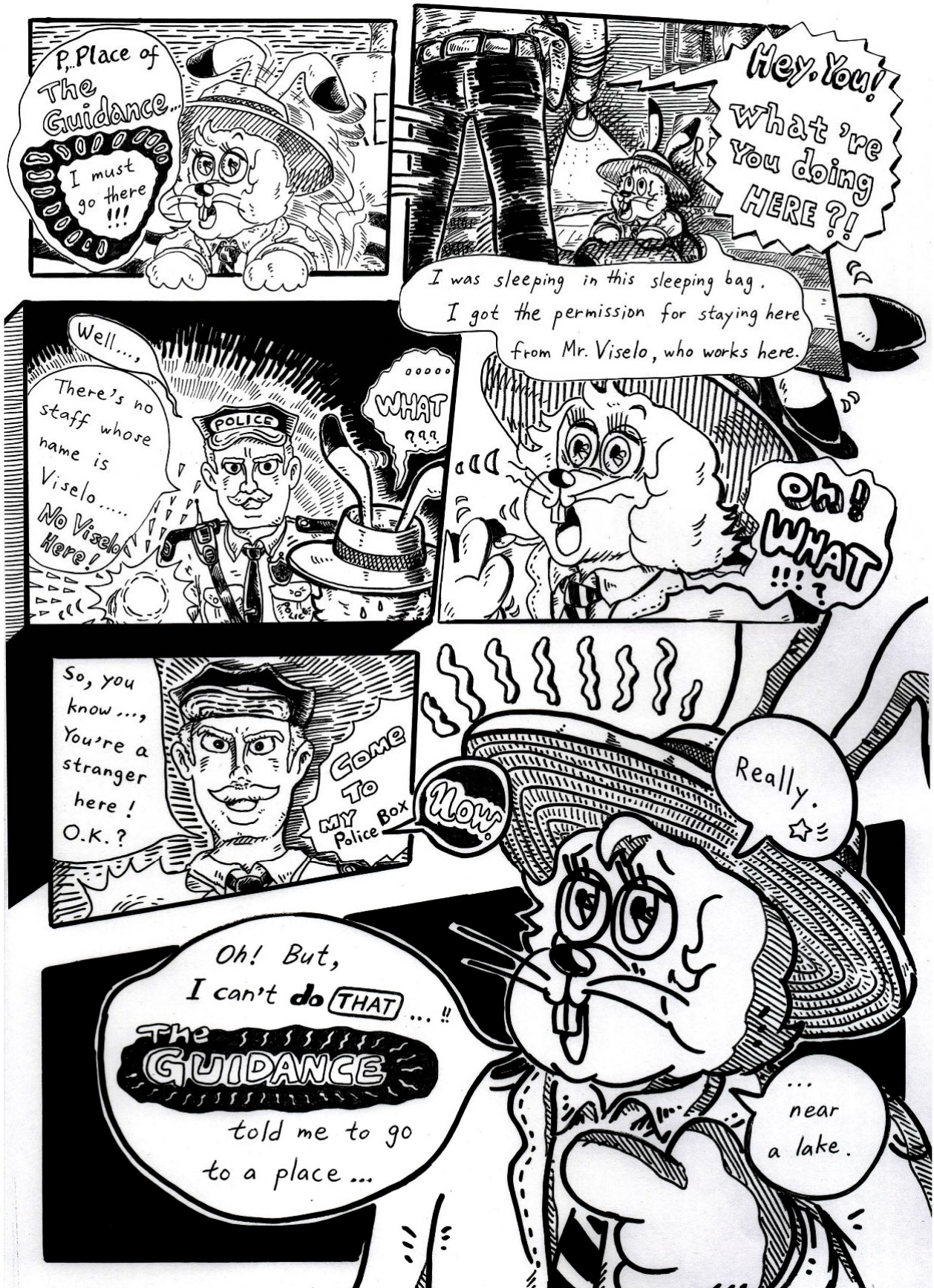


図4 Bergus Chan 4ページ目



図5 Bergus Chan 5 ページ目



図6 Bergus Chan 配信ウェブ用ジャケット